

授業科目

解剖生理学実習I

担当教員名 澁谷 顕一	対象学年	1	対象学科	健栄
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	45

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	○	○

授業の概要

本科目は1回あたり2コマの連続授業である。

前期の解剖生理学実習では、“自分自身の身体について生理学的に理解する”ことを目的とした実験・実習を行う。すなわち、自分達自身を被験者として、形態や体力などの身体機能をあらゆるパラメーターを測定する。その他、人体解剖模型、あるいは、顕微鏡による組織観察を通じて、解剖学的知識を学ぶ。

授業の目的

人体の仕組み（形態と構造）を理解し、人体を構成する器官や器官系が生命・健康の維持とどのように関わっているかを理解することを目的とする。

学習目標

- 1) 自分自身の身体について興味をもち、生理学的に理解する。
- 2) 臓器の位置や解剖学的特徴を理解する。
- 3) 実験レポートの書き方を学ぶ。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	前期ガイダンス	実習	澁谷 顕一
2	BMIと体脂肪率の測定	実習	澁谷 顕一
3	人体解剖模型の観察とスケッチ 第一回	実習	澁谷 顕一
4	BMIと体脂肪率測定のまとめとレポートの書き方	実習	澁谷 顕一
5	最大酸素摂取量の測定	実習	澁谷 顕一
6	最大酸素摂取量測定のまとめとレポートの書き方	実習	澁谷 顕一
7	組織観察 第一回	実習	澁谷 顕一
8	人体解剖模型の観察とスケッチ 第二回	実習	澁谷 顕一
9	組織観察 第二回	実習	澁谷 顕一
10	人体解剖模型の観察とスケッチ 第三回	実習	澁谷 顕一
11	組織観察 第三回	実習	澁谷 顕一
12	骨量測定	実習	澁谷 顕一
13	骨量測定のまとめとレポートの書き方	実習	澁谷 顕一
14	人体解剖模型の観察とスケッチのまとめ	実習	澁谷 顕一
15	組織観察のまとめ	講義と演習	澁谷 顕一

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書						
その他の資料						

評価方法

レポート・試験

履修上の留意点

事故防止のため、服装（白衣、上履の着用）、実験機器の取り扱い等について注意すること。詳細は学期はじめのガイダンスにおいて説明する。

オフィスアワー・連絡先

研究室：G302b。

質問等は随時受け付けます。出張等で不在のこともありますので、できればあらかじめメール（shibuya@nuhw.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。